



IHS
「多文化共生統合
人間学実験実習Ⅱ」

この対話は IHS の授業の一環ですが
学外の方の参加を歓迎します

シャンカル・ヴェンカテーシュワラン
Sankar Venkateswaran
(演出家・劇団主宰)

1979 年生まれ。インド・ケーララ州出身。カリカット大学演劇学部を卒業後、シンガポールの演劇学校シアター・トレーニング&リサーチ・プログラムにて学ぶ。2007 年、シアター・ルーツ&ウィングスを旗揚げ。代表作に『山脈の子ーエレファント・プロジェクト』(2008 年)、『水の駅』(2011 年)、『私たち死んだものが目覚めたら』(2012 年)、2 シーズン務めたドイツ公立劇場ミュンヘン・フォルクスシアターのレパートリー作品『暗黒の日々』(2016 年)、『INDIKA』(2017 年)、『犯罪部族法』(2017 年)などがある。2015 年より 2 年間、ケーララ州国際演劇祭の芸術監督を務める。現在、地元にて先住民の多く住む山間部に自ら作った劇場を拠点に活動している。

山田せつ子 Yamada Setsuko (ダンサー・コレオグラファー)

明治大学演劇学科在学中、舞踏研究所『天使館』にて笠井叡に師事。独立後ソロダンスを中心に独自のダンスの世界を展開し、舞踏から生まれた日本のコンテンポラリーダンスのさきがけとなり、国内外で数多くの公演を行う。1989 年よりダンスカンパニー枇杷系主宰。2000 年より京都造形芸術大学映像・舞台学科教授として 11 年間ダンスの授業を持つ。現在、ソロでダンス活動を続けながら、京都造形大舞台芸術研究センター主任研究員としてダンス、演劇のプログラム企画に携さわる。主な作品に『FATHER』『夢見る土地』『薔薇色の服で』など。著書に『速度ノ花』(五柳書院)がある。



シャンカル・ヴェンカテーシュワラン × 山田せつ子

身体の話

今、世界で最も注目される演出家とダンサーが、
ことばと身体の応答による対話をはじめ

日時: 2019 年 1 月 26 日(土) 14:00-17:00 入場無料 予約不要

場所: 東京大学駒場キャンパス コミュニケーションプラザ 2 階 舞台芸術実習室

主催・問い合わせ 東京大学大学院博士課程教育リーディングプログラム「多文化共生・統合人間学プログラム(IHS)」教育プロジェクト H「生命のポイエーシスと多文化共生のプラクシス」 project-h@ihs.c.u-tokyo.ac.jp

協力 公益財団セゾン文化財団 THE SAISON FOUNDATION 京都造形芸術大学<舞台芸術作品の創造・受容のための領域横断的・実践的研究拠点>